

## 日本遺産とは

〔主旨と目的〕

日本遺産とは、「地域の歴史的の魅力や特色を通じた我が国の文化・伝統を語るストーリー」を文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組に対して支援が行われます。益田市では、今後、その魅力あるストーリーをわかりやすく体験いただくための取組を進めます。



## 中世日本の傑作 益田を味わう ― 地方の時代に輝き再び ―

〔ロゴマークコンセプト〕

中世の文字から構成されたシンボルマークは中世から現代への時の川を旅する舟を表しています。地理的条件と豊富な地域資源を生かした日本海交易を進めた益田氏は東アジアの影響を受け、どこにもない文化をこの益田に花開かせたことから舟の形と表しています。舟の帆は益田氏の家紋にもある藤の花をイメージし多方面に稀有な文化を築いた益田の輝きも表しています。



# 日本遺産のまち 益田市



医光寺庭園



萬福寺本堂

中世日本の傑作 益田を味わう  
― 地方の時代に輝き再び ―

〔編集協力〕 網野ゆかり 〔デザイン・印刷〕 株式会社タイピック

お問い合わせ

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会（（一社）益田市観光協会内）  
〒698-0024 島根県益田市駅前町17-2  
TEL:0856-22-7120 E-mail:info2@masudashi.com



令和2年度文化庁文化資源活用事業費補助金  
（観光拠点整備事業）





# 中世の輝きが今、ここに

今から約400～800年前、

武士が力を持ち始めた平安時代末期から安土桃山時代の終わりまで、

中世と呼ばれる時代にひととき輝きを放った町があります。

それは東京でも京都でもなく、山陰地方の西端にある「益田市」。

国境のない海、恵み豊かな中国山地、そこから流れ出る清流で形成された平野を生かして、

人ともが盛んに行き交い、中央にひけをとらない優れた文化が花開きました。

現在の益田市には、その歴史を伝える港や山城、寺社、文化財などが

良好な状態で残されており、これほどの数の遺産をまとめて伝える町は、

全国で例がありません。

中世日本の輝きを、想像ではなくこの目で再び見ることができる奇跡。

「中世日本の傑作」を体感してください。



6 MAP 益田兼堯像 (益田市立雪舟の郷記念館所蔵)  
雪舟が描いた室町時代の益田氏15代当主の肖像画。



史跡益田氏城館跡(左は 8 七尾城跡、右は 13 三宅御土居跡)





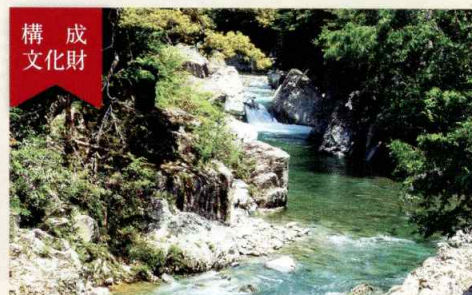
## 自然の恵みがもたらした歴史ドラマ

北は日本海、南は1,000mを超える雄大な山々を有する中国山地。日本一の清流である高津川や益田川が豊かな山あいを流れ出て日本海へと注ぎ、沖積平野を形づくります。海岸線には美しい松林の砂州が伸び、この地形が日本海の荒波や強風を遮り、中世の河口域は港町として賑わいました。

当時の益田は中国山地がもたらす材木や鉱物などの地域資源と海、川、山、平野という地勢的な優位性を生かしながら、海陸要衝の地として発展しました。



**23 MAP** 高津川 水質日本一に何度も輝く一級河川。交易品が行き交う河川交通を担った。



**22 MAP** 益見の山林 匹見の木材は、中世の主要な交易品である。



**24 MAP** 益田川 中世益田の港町と城下をつなぐ。



**26 MAP** 鮭 今も昔も益田の主要な特産品。

## 人とももの交流に国境なし、いざ日本海へ

地図をさかさにして東アジア諸国を見ると、益田は日本海を通じて東京や京都よりも中国や朝鮮半島と近いことがよく分かります。この立地条件と豊富な地域資源を力に、益田の人々は日本海に漕ぎ出しました。領主益田氏は交易を積極的に行い、財を築いていきました。こうした歴史を中須東原遺跡が教えてくれます。出土した陶磁器から、国内だけでなく朝鮮半島や中国、東南アジアと交易があったことが伝わってきます。中世益田は、人とももの交流の最前線だったのです。



**3 MAP** 中須東原遺跡 全国でも稀有な中世港町の遺跡。



中須東原遺跡の荷揚げ場跡



**19 MAP** 都茂鉱山跡 平安初期から現代まで稼働し、その鉱物は中世の重要な資源であった。



**20 MAP** 大年ノ元遺跡 室町時代の銅精錬の工房跡。



富山県作成「環日本海・東アジア諸国図」に加筆





**初代 御神本 国兼**  
(益田市立雪舟の郷記念館所蔵)  
本姓藤原氏で益田氏の祖。  
平安末期に石見国司として下向し、在庁官  
人として国府周辺(今の浜田市)に土着した。



**17代 益田 宗兼**  
(医光寺所蔵)  
当時の幕府から、大名に次ぐ「大外様衆」と  
して遇された。また戦国期に衰退した崇観  
寺を、医光寺に再興した。



**18 MAP 益田元祥像**  
(島根県立石見美術館所蔵)  
益田氏20代当主、元祥の肖像画(狩野松栄  
筆)。交易品の虎皮が描かれるなど、見ど  
ころが多い。



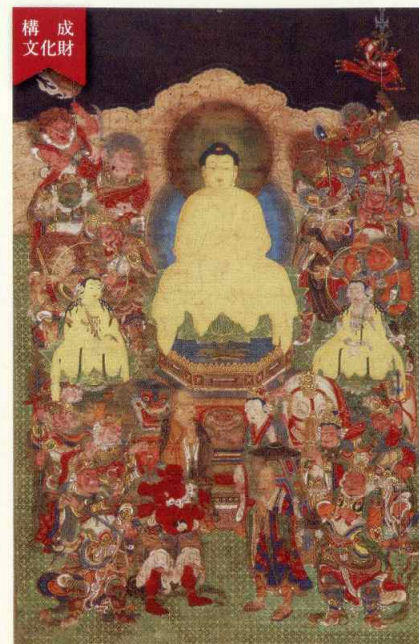
**1 MAP 櫛代賀姫神社**  
式内社。本殿は安土桃山時代に益田氏により再  
建された。境内から益田平野が一望できる。



**9 MAP 妙義寺**  
安土桃山時代に益田氏により再興。この地域の  
曹洞宗の中核寺院。



**16 MAP 染羽天石勝神社本殿**  
式内社で、益田氏も地域の氏神として保護した。  
本殿は安土桃山時代に益田氏が再建。



**14 MAP 釈迦十六善神像(泉光寺)**



**14 MAP 泉光寺**  
益田氏が去ったあとの三宅御土居跡を守る。  
染羽天石勝神社の別当寺勝達寺の遺宝を伝  
える。



**7 MAP 益田市立歴史民俗資料館**  
大正時代の実業家事務所。日本遺産ビジターセン  
ターの機能も兼ねた資料館としてリニューアルの予定。



**10 MAP 暁音寺前の鍵曲跡**  
中世には家老の屋敷。東側は、かつて道が鍵曲  
(クランク)状となっていた。



**21 MAP 神宝山八幡宮**  
益田氏が鎌倉時代後期に本拠を置いた東仙道  
に鎮座する。益田氏の氏神である御神本大明神  
も合祀される。

## 400年を統治した益田氏 町の中に色濃く残る、 繁栄の記憶

中世益田で隆盛を極めたのが、西国一の大内氏や毛利氏の傘下で  
力を伸ばした益田氏です。

益田氏の威勢を物語るエピソードがあります。毛利氏と関係が  
悪化し和睦の際に、朝鮮半島の虎皮をはじめとする莫大な贈  
り物をして、豪華な料理を振る舞いました。以後、毛利氏から一  
目置かれたと伝えられています。そのほか高さ5mの土塁を持  
つ益田氏の館・三宅御土居や、大規模な七尾城の遺跡は、同  
規模の領主と比べてはるかに大きなものでした。

益田氏は寺社を手厚く保護し、文化度の高い町を形成しまし  
た。現存する寺院や仏像には、中央の流行も見られます。また  
中国で水墨画を極めた雪舟は、益田で代表作を生み出しまし  
た。400年も続いた益田氏による益田の繁栄は、今も町の中に  
色濃く残されています。

構成  
文化財

### 8 MAP 七尾城跡

領主益田氏の城跡。全長600mに及ぶY字状の尾根全体が要塞化さ  
れた堅固かつ大規模な山城跡。

イラスト：香川元太郎

## 領主が夢見た 益田の未来

益田氏は、七尾城下の益田本郷地域を中心とした町づくりを進め  
ました。

七尾城は全長600mにも及ぶ、山をまるまる要塞化した山城。  
本丸跡は標高118mにあります。大規模なものになったのは16  
世紀半ばの19代藤兼のとき。毛利元就と対立し、その脅威に  
備えたと考えられています。代々領主たちは、ここから見下ろ  
す景色にどのような未来を見たのでしょうか。

本丸跡からは、11代兼見の時代から20代元祥の時代にか  
けて形づくられた道筋や地割も確認できます。12世紀にこれほ  
どの町づくりが進んでいた例は、全国でも他にありません。

構成  
文化財

### 13 MAP 三宅御土居跡

領主益田氏の館跡。東西に高さ5mの土塁が築かれ、周囲に堀を巡らせた、  
堅固かつ大規模な館跡。東西190mに及ぶ。長靴を横に倒したような形をしている。

イラスト：香川元太郎



## 雪舟と益田氏との出会い

益田市は、画聖・雪舟等楊とゆかりが深い町。雪舟は1420年に現在の岡山県に生まれ、12～13歳に宝福寺（総社市）で修行をします。絵を描くことを禁じられ柱にくくりつけられた雪舟が、涙で描いたねずみの話は有名です。その後は禅僧として修業を積みかわら絵を学び、中国に渡って中国の画法を学びました。中国から帰国したところ、日本は応仁の乱真っただ中の

乱世。九州、山口にわたり、1479年に大内氏を介して15代兼寛に招かれ益田を訪れたといわれています。画聖とよばれた雪舟を益田に呼び寄せた益田氏の力がどれほどのものだったのか、それは今に残された遺跡を見れば容易に想像できます。晩年を益田で過ごしたとの説があり、滞在した東光寺（現在の大喜庵）の裏手には雪舟の墓と伝わるものがあります。

### 「画聖」雪舟等楊

室町中期の頃、備中に生まれ、近くの宝福寺の小僧になったと伝えられます。青年期に京にのぼり、相国寺の禅僧として修行に励み、1461（寛正2）年に大内氏に招かれて山口を訪問、その後遣明船に便乗して中国に渡り、中国の景色や画法について学び続けました。雪舟は、中国に滞在中、寧波にある禅宗の古刹・天童寺から「天童山第一座」という最高位の栄誉を贈られています。天童寺で修行した日本人は臨済宗の開祖栄西や曹洞宗の開祖道元などたくさんいましたが、「第一座」の栄誉を授かったのは雪舟唯一人だといわれています。



高村光雲作 雪舟禪師像  
（益田市立雪舟の郷記念館所蔵）



益田兼寛公像（妙義寺前）

構成  
文化財

### 15 MAP 萬福寺庭園

庭園は雪舟の作庭と言われ、医光寺庭園とあわせて、室町の独特の庭園を四季折々楽しむことができる。



### 5 MAP 大喜庵

雪舟が滞在し、亡くなったとされる東光寺を江戸時代に再興した寺院。

雪舟の墓

## 心に語り掛けてくる 雪舟の庭園

雪舟が築いたといわれる庭は数多くありますが、国の文化財となっているのはわずか5つ。そのうちの2つが益田にあります。萬福寺庭園と医光寺（当時は崇観寺）庭園です。萬福寺は益田氏11代兼見が創建。その庭は座敷に座って眺める池泉鑑賞式で、須弥山世界（仏教）を象徴した石庭です。医光寺は南北朝時代に創建され、11代兼見に尊崇された崇観寺が前身。山の斜面をいかして築かれた庭は、春はしだれ桜、秋は紅葉と四季折々の美しい姿を見せてくれます。いずれの庭も雪舟の代表作といわれています。萬福寺に伝わる華南三彩壺は、東南アジアとの貿易で入手したと考えられています。交易に力を入れていた益田氏を彷彿とさせる品です。



### 17 MAP 医光寺総門

かつての七尾城大手門を移築したものと伝わる。



17 MAP 本造釈迦如来坐像  
（医光寺）（写真提供：島根県立石見美術館）



15 MAP 華南三彩貼花文五耳壺  
（萬福寺）

南北朝時代に制作された仏像で、崇観寺（医光寺の前身）の本尊とされる。

中国華南地方の焼き物で、南蛮貿易で入手した交易品。

構成  
文化財

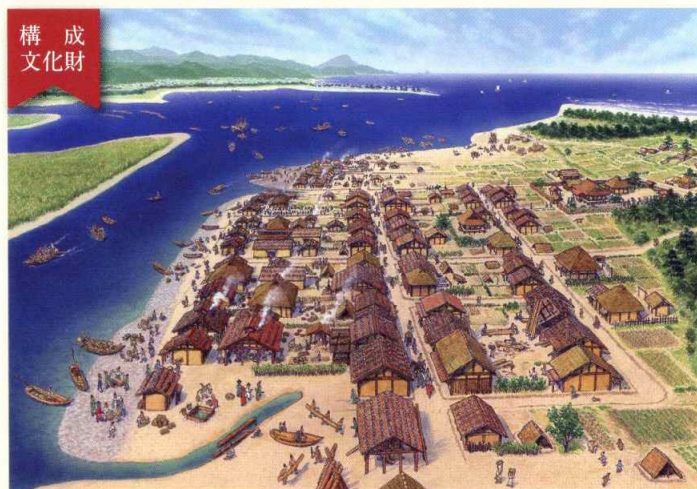
### 17 MAP 医光寺庭園

庭園は雪舟の作庭と伝わり、萬福寺庭園とは趣を異にするが、四季折々の美しい姿を楽しむことができる。



## 武将の息遣いが聞こえる町並み

400年にわたって益田を統治してきた益田氏が、ついに益田を離れるときがやってきます。関ヶ原の戦いで毛利勢が敗れたためです。20代元祥は徳川家康からの大名の誘いを断り、須佐（現在の山口県萩市）へ。これによって益田に城が築かれることなく、近世の城下町として再開発されることなく、中世の町並みがそのまま残されたのです。益田の町並みは、日本のほかの歴史ある町並みとは少し様子が異なります。たとえば、長靴を横に倒したような形と言われる館跡や、Y字形の山の尾根に築かれた山城跡、直線と曲線が入り交じった街路など。



**3 MAP** 中須東原遺跡 (想像図) イラスト：香川元太郎  
中世の港町を代表する遺跡。往時の集落跡や砂丘が残り、福王寺を含めて、中世の景観を今にとどめる。

地形的制約は地割にも影響し、2回しか曲がっていないのに、もとの場所に戻ることもある不規則な地割も。交易の拠点であったことを示す集落跡の中須東原遺跡、幕末の石垣ながら中世の荷揚げの様子を想像させる中世今市遺跡など、中世の景観を今にとどめています。益田を歩けば、今にも中世の武将たちの息遣いが聞こえてきそうです。



**2 MAP** 福王寺の石造物群  
福王寺は、中須東原遺跡に隣接し、交易に関わった寺院(浄土宗)と考えられている。境内には、十三重塔をはじめ、中世の石塔が数多く残る。

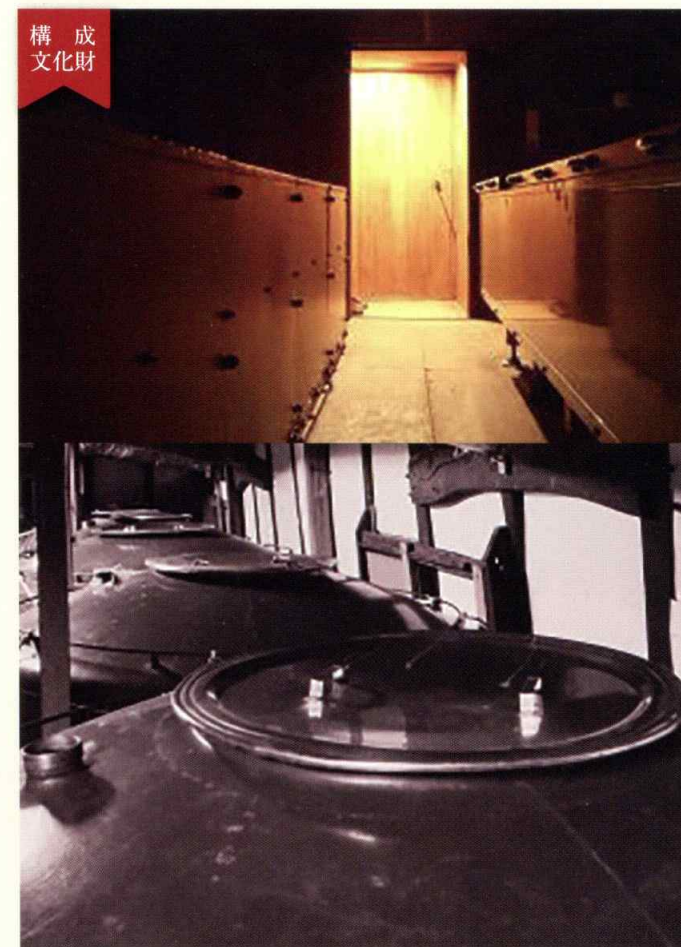
### 明治10年頃の美濃郡上本郷村道水路図

中世益田氏の本拠・益田には、妙義寺・萬福寺・医光寺・染羽天石勝神社など益田氏ゆかりの社寺、暁音寺前の鍵曲りや今市船着場など中世の名残を残すまちなみが市内のところどころに残されています。



## 中世の味に酔いしれる

江戸時代初め、益田が元気を失う中、右田宗味は活気を取り戻そうと酒造りを始めたといわれています。その酒蔵で酒造りを続ける右田本店は、島根県内で最も歴史ある蔵元。銘酒「宗味」や中世の酒を再現した「与三右衛門」が有名です。かつて銘酒「金冠白菊」を生産していたのが中原家。現在は廃業していますが、残された酒蔵では落語会などが催され今も活用されています。



**12 MAP** 右田本店酒蔵  
右田本店は、江戸時代初めに右田宗味が創業した県内最古の蔵元。銘酒「宗味」や「与三右衛門」を生産する。

そのほか清流・高津川の伏流水をもとにした桑原酒場の銘酒「扶桑鶴」や「高津川」など、美酒を通して中世の人々の心意気を味わえます。食でいえば、藤兼・元祥父子が毛利元就にふるまった豪華料理の献立記録が益田家文書の中にあります。その中に今も地元特産品である鮎とうるかの名が見えます。これらの中世の食を現代に再現させるなど、益田市は挑戦を今も続けています。



**11 MAP** 中原家住宅  
かつて銘酒「金冠白菊」を生産していた蔵元。城下の建物として最もその空気感を残している。



**25 MAP** 桑原酒場  
高津川の伏流水をもとに、銘酒「扶桑鶴」や「高津川」を生産する。



**4 MAP** 中世今市遺跡  
安土桃山時代の港町の遺跡。中世由来の短冊状の地割りが残る。



# 日本遺産で中世を体験

今、ここでしかできない体験を通して、往時の息吹といにしえといまをつなぐ時間を感じてみませんか。  
中世益田の歴史を実感できる、さまざまな体験プログラムを用意しています。  
さあ、もう一步奥の益田へ。

毛利元就への宴が蘇る

## ① 中世益田を味わう

お殿様気分を堪能

益田氏は当時緊張関係にあった毛利氏を訪れた際、豪勢な祝い膳を振る舞いました。料理の中には蝦夷地(現在の北海道)でとれる数の子や昆布が含まれるほか、贈り物には朝鮮産の「虎皮」などもあり、益田氏が積極的に日本海交易を行っていたことが伺えます。  
この「戦国益田氏弁当」は、益田「中世の食」再現プロジェクトが考証した食材や調味料を使用し、戦国時代の石見の国をテーマに創作した弁当です。

※「益田家文書」内にある祝い膳の食材を中心に献立を考えていますが、「益田家文書」に記述された料理そのものではありません。  
※季節によってメニューは変更します。

■料金(税込み)／2,980円

ご注文は最小3個から、最大20個まで。

【お申し込み】ステーキグランセゾン TEL.0856-22-8239

5日前までに予約が必要です。



一例)2020夏ver.



戦国益田氏弁当のし紙



一例)2020秋ver.

知れば知るほど奥が深い

## ② 創業1602年の酒蔵見学と日本酒試飲

芳醇な香りに包まれて、人々の心意気に触れる

江戸時代初めの創業といわれる右田本店は、島根県内で最も歴史がある酒蔵です。  
益田を元気づけようと始めた創業者の心意気を伝承し、今もなお挑戦を続けています。  
そんな老舗蔵元の酒造りを、オーナー杜氏の案内で見学します。

うわっ  
お酒ってこやっ  
て造られるんだ!!

■日時／不定期

■要予約(1名様から)

■料金(税込み)／500円(一人)

■場所／(株)右田本店(益田市本町3-30)

【お申し込み】(一社)益田市観光協会 TEL0856-22-7120

申込〆切 7日前まで



知らなかった「私」に出会う

## ③ 朝活—座禅と真砂豆腐の朝ごはん

歴史ある古刹で心を清めて自分探し

禅寺である妙義寺で座禅を体験していただきます。その後、益田市の名産である真砂豆腐で使われている豆乳とにがりで土鍋豆腐をつくり、季節の薬味や精進料理でもあるけんちん汁などで朝ごはんをお寺で召し上がっていただけます。

■日時／通年

■料金(税込み)／大人(中学生以上)：¥3,000※小学生以下はご参加できません。

■場所／妙義寺(益田市七尾町1-40)

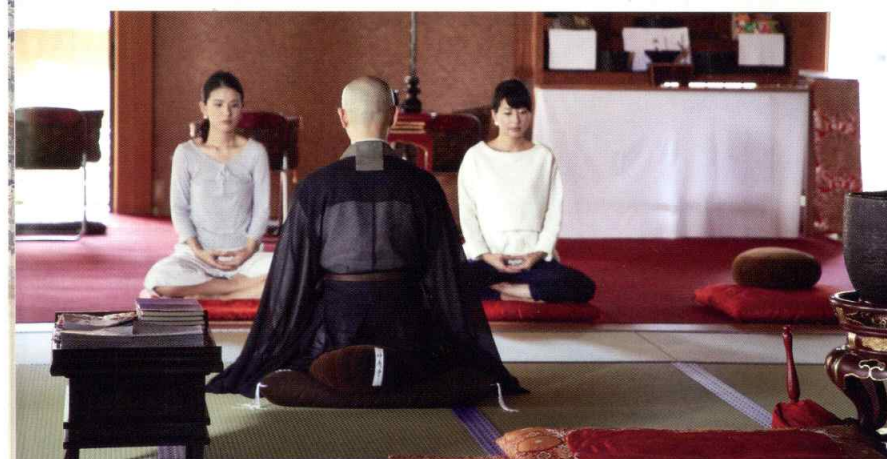
【お申し込み】(一社)益田市観光協会 TEL0856-22-7120

妙義寺 TEL 0856-22-3126

申込〆切 5日前まで



妙義寺



自分をいつくしむ食体験

## ④ 雪舟庭園で薬膳豆腐づくり

心の声に耳を傾けるひととき

雪舟庭園を眺めながら、自分でつくった豆腐と、カラダに優しい季節の薬膳を味わいます。益田市特産品の「真砂のとうふ」の豆乳を使って、土鍋で一人分の豆腐をつくります。

■日時／不定期

■要予約(4名様から8名様まで)

■料金(税込み)／3,200円(一人)

■場所／萬福寺(益田市東町25-33)

【お申し込み】(一社)益田市観光協会 TEL0856-22-7120

申込〆切 10日前まで



マイ豆腐づくりに挑戦!  
うまくできるかなあ〜

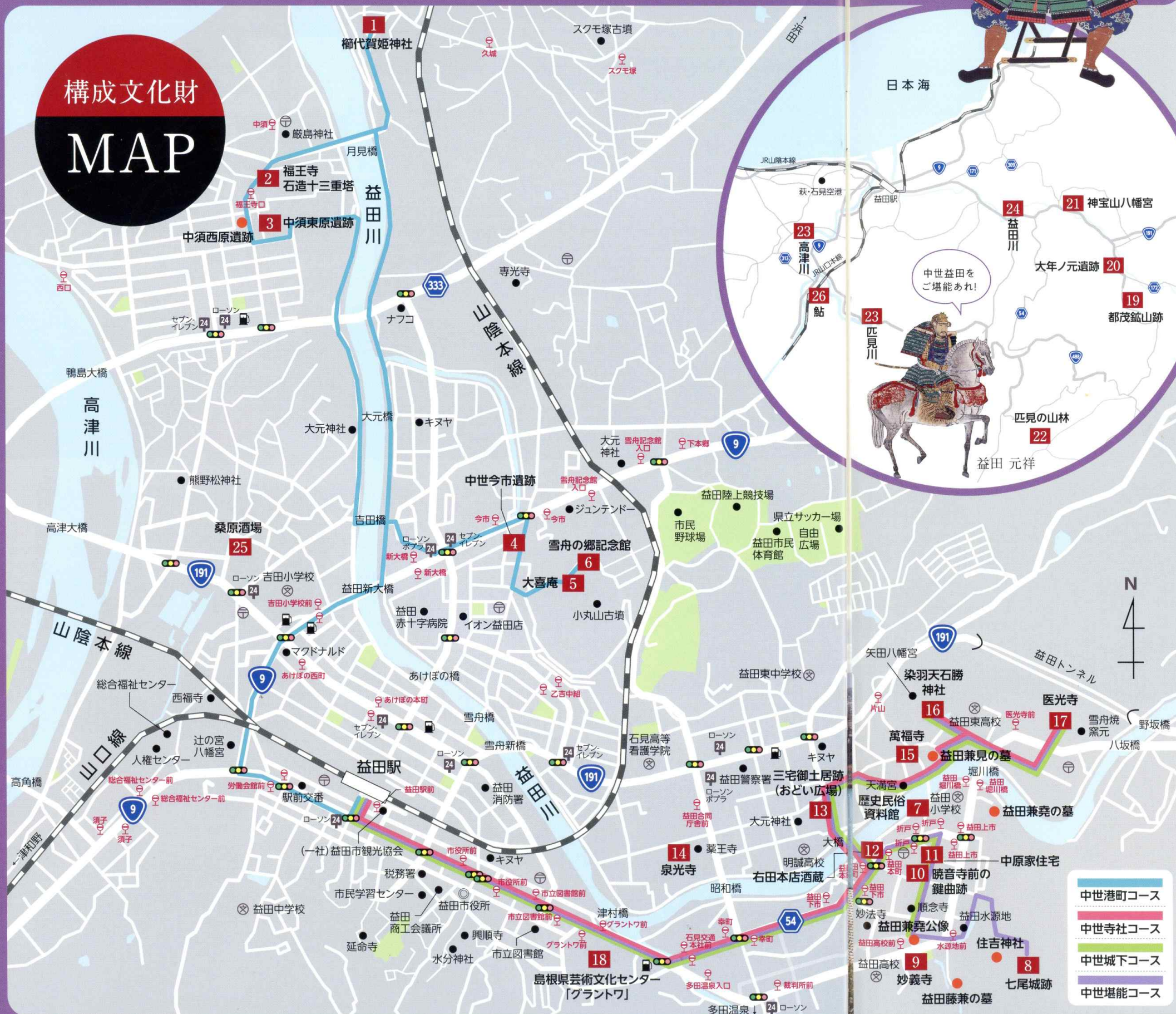


# 日本遺産のまち 中世益田の魅力味わおう

時代と地域の特性をいかして輝いた益田は、中世日本の傑作。  
多種多様で優れた一級の遺産を伝える益田は、全国でも珍しい中世日本を存分に  
味わうことができます。一度といわず何度でも、通うたびにまだ知らなかった益田が見えてきます。

構成文化財

MAP



特に  
雪舟ゆかりの地は  
おすすめじゃ。

益田 兼見

日本海

中世益田を  
ご堪能あれ!

益田 元祥

中世港町コース  
中世寺社コース  
中世城下コース  
中世堪能コース

※マップ上のルートはサイクリングコースです。

## 1 中世港町コース

所要時間: 車で約2時間

### ポイント

地の利と豊かな自然を味方に、国内外で積極的に交易を行っていた中世益田を知ることができるコースです。高津川と益田川が合流する益田平野にはかつて湖のような風景が広がり、日本海の強風と荒波を避ける天然の良港として栄えた歴史があります。東アジアにも開かれていた幻の港など、中世の壮大な風景に思いをはせてみませんか。

### 1 MAP 櫛代賀姫神社 P

8分 5分

### 2 MAP 福王寺 P

1分 1分

### 3 MAP 中須東原遺跡 P

20分 10分

### 4 MAP 中世今市遺跡

5分 3分

### 5 MAP 大喜庵 P

### 6 MAP 雪舟の郷記念館 P

## 3 中世城下コース

所要時間: 徒歩で約3~4時間

### ポイント

益田氏による400年もの統治がもたらした、城下町の地形を歩いて理解するコースです。中世城下の基準線となっていた道と鍵曲り跡、益田川沿いに立っていた市(いち)など見どころがいっぱい。萬福寺庭園や医光寺庭園をじっくり観賞する場合は約4時間が必要です。中世の輝きをどめたと並み、守られてきた宝の数々をどうぞ。

### 9 MAP 妙義寺

7分 3分

### 10 MAP 暁音寺前の鍵曲跡

5分 2分

### 12 MAP 右田本店酒蔵

5分 2分

### 13 MAP 三宅御土居跡

7分 3分

### 15 MAP 萬福寺

5分 2分

### 16 MAP 染羽天石勝神社

10分 5分

### 17 MAP 医光寺

## 2 中世寺社コース

所要時間: 徒歩で約2時間

### ポイント

中世の益田の文化を象徴する寺社を巡るコースです。画聖・雪舟の代表作といわれる名庭をはじめ、中世に造られた特徴ある建造物を観賞できます。国の文化財に指定される5つの雪舟庭園のうち、2つを見ることができる充実の内容です。当時の建築技術の粋を集めた美しい姿を見ることが出来ます。

### 15 MAP 萬福寺 P

5分 2分

### 16 MAP 染羽天石勝神社

10分 5分

### 17 MAP 医光寺 P

## 4 中世堪能コース

所要時間: 徒歩で約4~5時間

### ポイント

中世城下を歩き、さらに益田氏の山城があった七尾城跡に登って中世の益田を堪能できるコースです。周囲の山々や日本海まで望める七尾城跡からの見事な眺望を、領主になった気分です。全国でもほかに例のない、中世最先端の町づくりをご覧ください。

### 8 MAP 七尾城跡 P

Pより 10分 2分

### 9 MAP 妙義寺 P

7分 3分

### 10 MAP 暁音寺前の鍵曲跡

5分 2分

### 12 MAP 右田本店酒蔵

5分 2分

### 13 MAP 三宅御土居跡 P

7分 3分

### 15 MAP 萬福寺 P

5分 2分

### 16 MAP 染羽天石勝神社

10分 5分

### 17 MAP 医光寺 P